

帝キキ時代映畫

脚色者 西條照太郎氏
監督者 後藤 秋聲氏
撮影者 大塚 周一氏

主要役割

上井八郎 岸岡紅三郎氏
山本作左衛門 市川 縉谷氏
俣 清之助 青木 孝天君
娘 政江 福岡 君子嬢
海野六兵衛 本間 直司氏
山崎大助 市川玉太郎氏

(略筋省略)

總てに古臭くて活氣に乏しいのは止むを得な

いが市川縉谷氏一派の作品として見たら悪い方
ではないと思ふ。作左衛門が作の不徳を恥し我
が子を銃殺する件などは珍らしく緊張味が有
つた。後藤秋聲氏の監督は縉谷一派には手馴れ
て居るだけに俳優の指導方面は無難であるが、
追っかけの場面などは拙劣でもう少しフィルムを
惜んで貰ひたい個所も可成り見出された。俳優
では市川縉谷氏の作左衛門が適役で有つた丈で
他の人々は評すべき事があるまい。因に此映畫
は帝キキに於る市川縉谷一派及び後藤秋聲氏の
最後の作品である。山本 鏡架一
興行價値一筋に多少無理があるし此種映畫に
民衆の求めてやまない猛烈な乱闘も大してない
ら呼びものとするには無理である。
(四月二十日、大阿曾遊劇場封切)